

令和2年度 第1回 えちぜん鉄道活性化連携協議会 議事録

日 時： 令和3年2月4日（木） 14：00～15：30
場 所： フェニックスプラザ301会議室
出席者： 別紙出席者名簿のとおり
資 料： 別紙資料のとおり

開会

1 会長（勝山市長）挨拶

2 議事

規約第8条第2項により、座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告（1）乗車実績等について

えちぜん鉄道より資料説明（報告（1）資料参照）

<意見等>

○座長

大雪の対応について、3年前の大雪の経験が効果的に働いたと思う。改善の余地があればさらなる改善をお願いしたい。特に、地域生活の重要な活動である通勤について、大雪時の安定輸送を支えるのは鉄道の大きな役割。通勤定期などの利用推進も必要。

報告（2）えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画主要施策進捗状況について

事務局より資料説明（報告（2）①②資料参照）

<質疑応答>

○委員

サイクルトレインの利用者数の推移は。スタート時と比べてどうか。

○事務局

H30年度270件、R元年度332件、R2年度318件の利用があった。

○えちぜん鉄道

自転車に興味している人が長距離サイクリングの帰りなど電車を使うことが多いが、そのような趣味を持つ人が増えていると感じている。特に今年は（コロナで）レジャーがアウトドア志向になっていて、サイクルトレインの問合せが多かったという印象。

○委員

非日常という意味でサイクルトレインは売りになると思っている。私も利用していく。

協議（１）次期支援スキーム、地域公共交通計画策定について

えちぜん鉄道より主旨説明

○えちぜん鉄道

現行の支援スキームは、平成24年度から令和3年度までの10年間について、えちぜん鉄道への行政支援の枠組みを定めていただいたもの。

えちぜん鉄道はこの10年間、行政支援のもと、安全で安定した運行を徹底するとともに、県民に愛される地域の足として「鉄道を核とするまちづくり」にも貢献できたと考えている。今後も地域の発展を支える社会基盤としての役割を果たしていきたいため、行政から引き続きご支援いただけるよう、次期支援スキームの検討をお願いしたい。

<質疑応答>

○座長

支援をしている沿線市町、県から意見はないか。

○委員（勝山市）

えちぜん鉄道はかけがえのない県民の財産である。勝山市をはじめ沿線市町が支援を続けていくべき。同様に福井県からの支援継続も必要と考えている。福井県の同意をいただいたうえで、次期支援スキームの構築に早急に取り組みたい。

○委員（福井市）

えちぜん鉄道は本市を含め5市町を運行しており、通勤通学から観光まで、住民にとって欠かすことのできない移動手段である。新型コロナウイルスの感染拡大や北陸新幹線の福井開業、並行在来線の運営など、様々な問題がある中、令和4年度以降についても、県と沿線市町が引き続き協同しながら支援していくのは大切と考えている。

県の同意をいただきながら、次期支援スキームの検討に早急に取り組むべき。

○委員（あわら市）

えちぜん鉄道はあわら市民にとっても必要不可欠な交通機関である。支援スキームを作り、えちぜん鉄道を存続発展させていくことが必要。県においても、引き続き支援をいただきますようお願いいたします。

○委員（坂井市）

我々も同様にスキームについては早急に取り組みなくてはいけないと考えている。県にも今まで以上のご支援をいただきながら進めていけたらと思っている。

○委員（永平寺町）

皆様と同様に必要だと考えている。えちぜん鉄道は、住民の足ということはもちろん、

観光や移住定住という視点からも重要なインフラである。沿線市町だけでなく、福井県全体の発展にもつながるので、県のご支援もいただきながら、ぜひ進めていきたい。

○座長

直接沿線ではないが、大野市の意見はどうか。

○専門委員（大野市）

大野市は奥越地域ということで、えちぜん鉄道と JR という二つの路線が連携しての発展ということを考えれば、えちぜん鉄道への支援をこれからも、県の支援もいただきながら、進めていくということは大切だと考えている。

○座長

沿線市町からは、市町として支援スキームの検討に向けて進んでいくということで、ご意見をいただいた。県のご意見はいかがか。

○専門委員（福井県）

県としても地域公共交通は非常に大事であり、沿線市町とともに引き続き協力したいと思っている。次期スキームに向けた議論にも積極的に参画させていただきたい。

今後10年間、新型コロナウイルス関係は鉄道にとってマイナス面もあるが、新幹線の開業や、2050年に向けた脱炭素社会への方向性など、鉄道にとってプラス面もいろんな形で出てくると思う。また、並行在来線が地域の鉄道会社として衣替えし、一層連携しやすい形になるかと思う。

次期スキームについては、そういったプラス要素を利用者の拡大につなげていければ、行政としても支援のしがいがある。えちぜん鉄道のご努力もいただきながら、ぜひそういった方向に進んでいきたい。

あと1点、施設の老朽化が進んで更新の需要も出てくると考えるが、県、沿線市町も予算の制約のある中でどこまで支援していけるかということもあるので、議論の前提として、専門機関による調査も行っていただきたいと思います。

○座長

次期スキームについて検討を開始するということについて、協議会からご了承をいただいた。内容については、本日出た意見を踏まえて、今後検討していくのでまたご協力いただきたい。

次に、次期スキームと連携して、地域公共交通網形成計画も最終年度ということで、その改訂も含めて、今後の体制やスケジュールの説明を事務局からお願いしたい。

事務局より資料説明（協議（1）資料参照）

<質疑応答>

○座長

スキーム及び計画の検討体制やスケジュールについてもご了解をいただいた。

「地域公共交通計画」だが、これまでの連携計画、網形成計画は、県と沿線5市町が連携して広域の交通圏として計画し進めてきたのが大きな成果であり、活性化再生法の改定後の要件をかなり満たしていると思っている。

今後の課題としては、県と沿線市町がさらに連携し、広域の地域公共交通計画（マスタープラン）としての位置づけをしっかりと行うこと。新しい要請として、MaaSのように、沿線市町が持っている移動を支える資源を、鉄道を軸に最大限拡張していくようなことも、盛り込むべき課題だと思う。

課題や盛り込むべき施策の洗い出しを進め、それらを持ち寄ることで、県と沿線市町、鉄道事業者が一体となっていていい計画ができればと思う。国に支援を仰ぐときは、支援スキームが計画にきっちりと位置付けられているということが要件になると思うので、それを踏まえて、よろしくお願ひしたい。

協議（2）国への要望の実施について

事務局より資料説明（**協議（2）**資料参照）

※ 協議事項2は協議会として国に要望する内容のため、運輸支局（専門委員）には議論への参加を控えていただいた。

○座長

要望書の具体的内容は検討していくということで、提出については協議会として了解をいただいたということにさせていただく。

コロナの中、国も様々な要請を受け大変と思うが、鉄道は、あらゆるものに関わってくる根幹的なインフラだという点をもっと押し出していくことも必要だと思う。ぜひ協議会としていい要望ができればと思う。

3 その他

<質疑応答>

○えちぜん鉄道

大雪に関して、お礼とお願いがある。

今回の大雪では、雪の少ない三国芦原方面でも積雪があり、全線が雪に埋まった。そうした中、県をはじめ沿線市町から職員が駆けつけていただき、ホームの除雪など、いろんな面でご協力いただき、早く再開できた。あらためてお礼申し上げたい。

しかし、今回の除雪で、老朽化している2台の除雪車が故障した。70年間利用してきたラッセル車と40年間利用してきたMCRが故障し、今期は修理が間に合わないということで、これ以上降らないように祈っている状況である。

この2台はかなり老朽化しているので、昨年10月に最新の除雪車を入れていただいた

ばかりだが、できればもう1台、除雪車の導入をご検討いただきたい。

今回、除雪にかなりの経費がかかった。こういった大雪になった場合の除雪の経費についても、今後ご支援いただければありがたい。

○座長

沿線市町から何か意見はないか。

○委員（勝山市）

今回の雪は平成30年に続いて災害救助法の適用を受けた。短期間に大量の雪が降り、えちぜん鉄道が止まったことで、あらためてえちぜん鉄道が福井県民の足としていかに重要かを再確認する機会になった。

こういった特別な雪の時には、福井県、そして沿線市町でどのようにえちぜん鉄道を支えていくのか、しっかりと、ぜひ次期支援スキームの中で定めていく必要があると思う。ぜひこの点を含めて検討をお願いしたい。

○委員（福井市）

えちぜん鉄道に関しては、県と沿線市町の合意を基本に支援をしてきた。勝山市長もおっしゃられたとおり、これから次期支援スキームについていろいろ議論するわけだが、雪という、頻繁に大量に降ってくるという自然現象に対して、沿線市町、あるいは県と協同しながらどう対応をしていくかをしっかり検討すべきと私共も思っている。

○専門委員（福井県）

除雪車が2台故障し、1台はなかなか修繕も難しいという話を聞いているので、県としてはロータリー車（MCR）を新年度予算で購入できないか、いま予算折衝している。今回の除雪を見ても、機械力というのはとても大きくて、それがないと1日も早い再開とはならない。我々としてもぜひ応援できるところはしていきたい。

プラスアルファとして、やはり、人的な除雪の部分、いわゆる除雪経費について、経年かかる部分と異常時にかかる部分の仕分けをする必要があるという気がしている。

そこについては、沿線市町の皆様とも十分協議していただいて、その辺のスキームを確立していく必要があると思う。なかなか例年の儲けで返していけよ、とはいかない部分もあるかと思うので、次期スキームでご検討いただければと思う。

○座長

除雪への具体的な支援について、この場で結論は出せないが、今後、次期スキームに向けた議論の中で、自然災害でもどのレベルで安全安定な移動を確保すべきか、それを確保できる体制となっているのかなど、きっちり精査したうえで、スキームの中に盛り込んでいく必要があると思う。また協力をお願いしたい。

○委員（ROBA）

昨年11月29日に川上先生のご協力のもと、富山大学の金山教授もお迎えして、公共交通全般の講演会を開催した。その時に発行した「公共交通活性化アイデア集Ⅱ」をお手

元に配布したのでご案内する。

当NPO法人は設立20年で、20年ほど前にアイデア集Iを出している。京福電車の衝突事故2回目があり、これは大変だということで、鉄道を中心とした公共交通の再構築のためにアイデアを寄せ合って作成した。

今回は、それから20年を経て、新幹線が来るという歴史的な状況を踏まえて、これまでに地域や国からいただいた意見、活動で得られた知見をもとに取りまとめたもの。

要望書ではなくアイデア集なので、次期のスキームにピリッと味を加える参考にしていただければと思う。えちぜん鉄道だけでなく、福井鉄道、越美北線、小浜線、並行在来線といった鉄道、バスの問題も含まれている。

○座長

短期、長期、ハード、ソフト、官、民、いろんな角度からのアイデア集で、次期支援スキームを作る出発点として参考になると思う。ご覧いただきご意見いただければと思う。

○委員（サポート団体連絡会議）

えちぜん鉄道が開設してから今年の7月で18年だが、私たちが電車の存続活動に一生懸命取り組み、サポート会を作ってから、今年でちょうど19年になる。来年は20周年ということで、今年1年かけて記念誌をつくる。住民活動で存続したえちぜん鉄道ということで、活動の写真を入れた冊子を作って、全国の関係各所へ送付したい。

次期スキームについて、行政から力強い言葉があり、県からも積極的に支援して下さるという言葉をいただき、住民の代表として嬉しく、これから期待したいと思う。

また、座長から、これまでの10年プラスいろいろなことを考えて作って欲しいと言っていたのも、大変心強い。

えちぜん鉄道は、おかげさまで世界へも発信していける鉄道となっている。これからも乗って残す活動はずっと続けていきたい。

○専門委員（運輸支局）

昨年11月に活性化再生法が改正になり、網形成計画から地域公共交通計画に変更になった。今後、連携協議会が新しいスキームを策定していくにあたって、計画策定に対する国の支援があるので、この制度も視野に入れて計画策定してほしい。

○委員（商工会議所）

今回の雪で、あらためて社会資本としてのえちぜん鉄道の大切さを住民もよく理解したと思う。いまほど、周辺自治体の皆様から心強い言葉があり、利用者としてありがたく思う一方で、自治体にも財政面の限界があると思う。

そういった意味では、周辺の住民、そして私共企業も沢山の会社が周辺にあるので、住民自らが乗って守るという視点が大切だと思う。次の10年には、支援スキームという議

論の中に、利用スキームといった視点も取り入れてはいかがか。

○座長

おっしゃるとおり、一番の支援は、沿線住民、企業、沿線に関わらず、いかに利用するかということで、利用促進を住民にどうアピールするかということを十分留意して計画を考えていく必要がある。住民だけでなく、企業については商工会議所にもいろいろご協力いただくことになると思う。

閉会

○座長

今日は次期支援スキームと地域公共交通計画策定について検討を進めることにご了解いただき、ご意見もいただいた。もう1点、協議会として、国への要望ということについてもご了解いただいた。

えち鉄は存続危機から再生を成し遂げ、次は再生を超えて、地域全体の経営経済的側面にどう貢献するかという段階だと思う。新幹線はやはり大きな節目で、ホップステップジャンプの大きな機会になると思う。そこにターゲットを合わせながら、福井なりの地域公共交通体系を1段高めていく必要がある。

こういう段階になってくると、交通事業者だけに頼るのではなく、公的支援も含め、サービスの効率的供給とサービス向上の両面から、いかに県市町と交通事業者が連携していくのが課題になってくると思う。

皆さんもその必要性については認識していると思う。いかにその一步を踏み出すか、次の10年、このタイミングを逃したら無いように思うので、その点からの検討を再度お願いして、協議会を終了させていただく。